

## 人を真ん中に・・・

2011年3月11日、午後2時46分、東北地方太平洋沿岸の地域をマグニチュード9.0の巨大地震が襲った。多くの命と故郷を奪われた東日本大震災の発生から6年。

生きているといいね ママ、お元気ですか  
文に項傾し(うなかぶし)、幼な児眠る

これは皇后美智子様が、東日本を襲った未曾有の大地震によって、両親と妹を掠われてしまった四歳の少女が、母に宛てて手紙を書きながら、その上にうつ伏して寝入っている姿を新聞紙上で御覧になられ、そのいじらしさに打たれて詠まれた御歌である。

少女の名前は愛海(まなみ)ちゃん、小さな心を痛み、言葉もしゃべれなくなるほどのショックの中で、良い子にしていれば、お母さん・お父さん、妹が返ってくると信じ、おばあちゃんの家から懸命に学校へ通ったという。

私たち人間は、自然との比較においては悲しいほど無力である。しかし、一人ひとりの思いは決して壊れるものではなく、むしろ逆境の中にあればあるほど、それは大きくなっていくのではないだろうか、小さな子供がそれを証明してくれている。

そうした一人ひとりの思いと力の足し合せが、3.11以降、「絆」や「支え合い」という言葉を大きくしてくれたのだろう。私たちは、このことを忘れることなく、これからも東日本大震災はもとより、熊本地震をはじめとする自然災害からの復興・再生に寄り添っていかなければならない。

足下では、AP17春季取り組みを進めている。3月15日の山場に向けて、各業種別部会は一丸となった取り組みを進めるとともに、鉄鋼総合をはじめとするAP16春季取り組みで2年分の結果を得た部会では、グループ、関連組織への支援に奔走していただいている。

AP17春季取り組みは、賃金改善の継続と底上げ・底支えを図り、わが国経済、産業・企業の好循環の輪を回す取り組みである。その中心軸には常に「人」が座っていなければならない。厳しい環境に晒されながら、幾度となく経験した産業・企業の生き残りをかけた経営施策にも、真面目に、地道に、懸命に対応してきた働く者、人の力があつたからこそ乗り越えてこられたことは間違いない。

「安全と健康無くして職場の生き活きなし、職場の活力なくして企業の発展なし、産業・企業の発展なくして、私たちの雇用と生活の安心・安定なし」 職場原点の好循環の追求をめざし言い続けている言葉である。

AP17春季取り組みのスローガンは、「継続は力 『人への投資』で好循環の実現！」、いよいよ最終盤、加盟組合の仲間と共に、人を中心に据えた形ある結果の引き出しに向け全力を傾けよう。

ご安全に

2017年3月10日  
日本基幹産業労働組合連合会  
事務局長 神田 健一